

Delay CATEGORY

Stereo Delay



ステレオタイプのディレイです。左右に飛び回るようなディレイ効果や、空間に漂うような音場を演出できます。Beat Syncボタンをオフにするとテンポにシンクロしないディレイを作成可能です。オンにした場合は音符単位で設定でき、さらにGrooveで前後にずらせます。左右独立のFeedbackは、Crossfeedでたすきかけにかけられることも可能です。

ディレイ音が原音をじゃましないように、Low CutとHigh Cutのフィルターで音色を加工できます。

Delay CATEGORY

Tape Delay



デジタルディレイが開発される前に、広く用いられていたテープディレイ(テープエコー)をシミュレートしています。

ディレイ音はテープ独特のローファイ感があり、内部でレベルオーバーが発生した場合にも、テープ独特の味のある飽和歪みになるのが特徴です。また、Flutter RateやFlutter Intensityにより、テープ独特のディレイタイムとピッチの揺らぎが加えられます。Feedbackを極端に上げるとテープディレイのように発振します。無限に繰り返すディレイを設定する場合は、Freezeボタンを使用します。なお、Tape Delayは他のディレイ系エフェクターと違って、LFOを装備していますから、テープ独特の質感を生かしたコーラスやフランジャーも作成できます。

Distortion CATEGORY

Bitcrusher



デジタル処理によるレベルオーバーをあえて起こさせたり、ビット数やサンプルレートを落としたりします。初期デジタル製品のようなザラついた質感や、デジタルならではの破壊的なディストーションサウンドが作成できます。入力レベルと歪みやずさを決める、DriveとClip Levelで歪み(レベルオーバー)の度合いを決めます。歪み方(サウンド)は3種類のModeから選択します。

さらにResolutionを下げれば粗いビット数となり、Downsamplingを上げればサンプルレートが下がっていくため、デジタルエラーによる独特のノイズが加わります。